


東京学芸大学
令和5年度
第1回外国人児童生徒等教育研修

担当教員の役割と 日本語教室の運営

横浜市教育委員会
横溝亮



担当教員の役割と
日本語教室の運営

01

担当教員の役割

02

校内の連携・共通理解

03

家庭との連携

04

外部機関・地域との連携

日本語教室・国際教室の形は一つではありません

来日年数の浅い児童生徒が多い学校
(日本語指導が中心)



日本生まれ・日本育ちの児童生徒が多い学校
(教科指導が中心)

各校の実態に合わせて、
日本語教室の運営・指導を考える必要がある。

日本語教室・国際教室担当者の役割

児童生徒への 教育活動

- ・日本語の指導、支援
- ・「居場所」づくり
居場所を広げる
ための支援

校内の連携 共通理解

- ・学級担任との連携
- ・職員との情報共有
- ・外国人児童生徒等
教育の位置づけ

家庭との連携 共通理解

- ・外国人保護者への連絡
- ・日本人保護者との
関係づくり

外部機関との 連携

- ・教育委員会との連携
- ・学校間の連携
- ・地域との連携



文部科学省
外国人児童生徒
受入れの手引きより

児童生徒への教育活動



国際教室の環境づくり

児童生徒が日本語を学ぶことができる環境を整えます。

&

多文化共生の発信の場としての環境も整えます。



日本語指導・教科指導

児童生徒一人ひとりに応じた指導計画を作成し、日本語指導や教科指導を実施します。



居場所を広げるための支援

国際教室が児童生徒の居場所となるよう、児童生徒との関係を築きます。

児童生徒の居場所を広げる支援を行います。

児童生徒への教育活動

JSLカリキュラムの基本的な考え方



学習に必要なことは学習に
参加する中で身につく

単語帳的な考え方では、身につかない



子どもが主体的に活動し、その活動の
中で日本語を使うことで、ことばを学ぶ

そのために子どもの興味関心に基づいた、
知的刺激のある内容を用意する



「なんとなくわかった」では、不十分

自分のわかったことを日本語で発信する重要性



菅原雅枝（2015「日本語での学習」を支えるために）

児童生徒への教育活動

JSLカリキュラムの基本的な考え方



学習の中で新しいことば
や知識を学ぶ。

input

国際教室



今日わかったことを
発信する。Output

①

連携



学習の場とは別の場で（在籍級）
自分のことばとして発信する。

Output②

⇒ことばの獲得につながる

Input②

在籍級

連携

日本語教室や在籍級でできる学習支援

【実物・図表・写真・絵等を積極的に利用】

・日本語力が十分でない外国につながりのある児童には、言葉だけの説明や抽象概念の操作は難しい。

・具体的なイメージづくりを助ける。

・具体的活動を取り入れる。

【わかりやすい言葉遣い】

・短く、明確、的確な語彙を選択する。

→文が長い説明をできるだけしない。

・発問の仕方を工夫する。
(発問と応答のパターン化)

・重要事項は繰り返し伝えて定着を図る。

【その他】

・欲張りすぎず、一度に教える内容を精選する。

・本時の学習で最も重要な内容を明示する。

・子どもの興味・関心を引く教材の作成や選択

・子どもの成長に応じた指導方法の選択(低学年と高学年、小学生と中学生では、指導方法が異なる)

校内の連携・共通理解

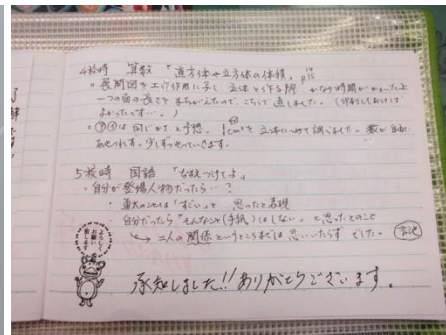
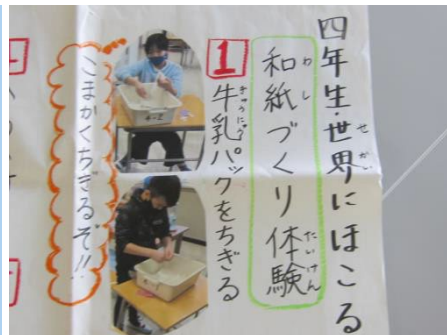


担任との情報交換

担任の先生とは連絡ノートを活用して指導内容等のやり取りをしています。

担任との連携・共通理解

在籍学級の担任と時間割の調整、生活や学習の様子などについて情報交換をします。校内の職員とも児童生徒の情報を共有できる仕組みを構築します。



家庭との連携

国際教室保護者会（令和4年5月16日実施）



実施の背景

早い段階で、日本の学校や、学校行事等を知ってほしいという思いで保護者会を実施しました。



1年生保護者多数参加

1年生の保護者とこれからの行事や国際教室の学習について確認をしました。英語と中国語の通訳の方も参加してくれました。



日本の学校は難しい

保護者のみなさんに困っていることを聞いてみました。っ港から配布される手紙が難しいようです。学校で配布する手紙の内容をしっかりと伝えるためには、工夫が必要です。

外部機関との連携（A小学校の事例）

国際教室に関わる人々

（A小学校では国際担当者3名に加え、様々な方々と連携を取っています）



横浜市日本語指導員

現在6名の児童が日本語の先生から指導を受けています。



日本語支援拠点施設

校内に初期日本語指導施設があり、授業見学等で日常的に連携を行っています。



外部支援者

母語支援者・学生（日本語専攻）が児童の支援に関わってくださっています。



日本語支援アドバイザー

他校の国際教室の様子や指導方法などの情報交換。国際教室担当として授業も実施。

大切にしてきたこと

日本語力の育成

児童が自分で学習できる日本語の力をつける。
自分自身の指導力もUP!

多文化共生の視点

自分の国の言葉や文化は素敵なんだ。
友だちの国の文化や言葉を知るのはとっても楽しい。
国際教室が子どもたちの居場所に。

他機関との連携 発信

国際教室は、「どういう場所で」、「どんなことをしているのか」を正しく伝えたい。
地域も含め、みんなで子どもを見守っていく。

国際教室担当者の 専門性向上

「来年度も国際教室担当者を続けたい」、「もっと学びたい」と思えるようなポジションに。



THANK YOU

謝謝

ありがとう

Obrigada

shukriya